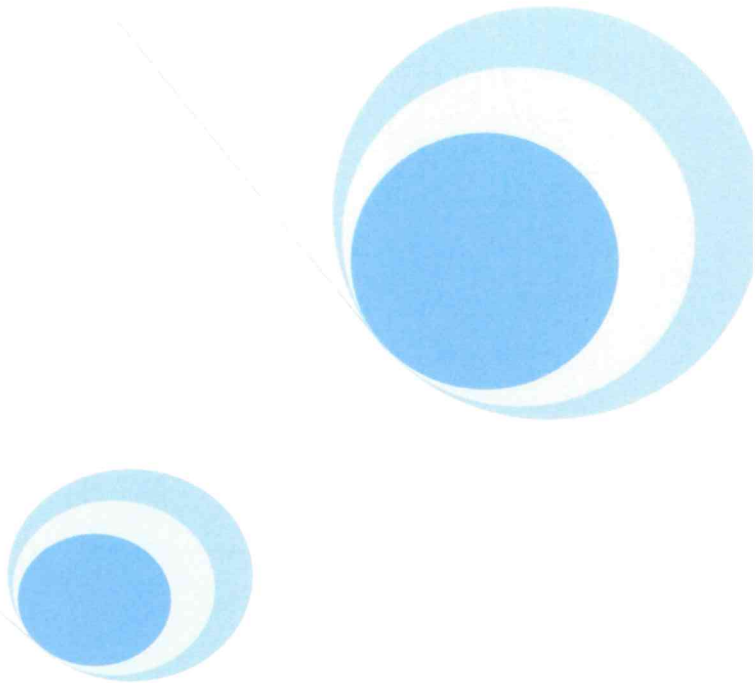


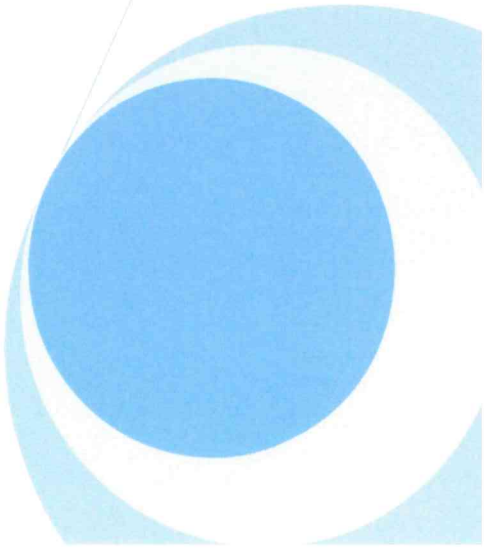


シラバス

授業科目及講義内容

共立高等看護学院

2025年度



3年間の授業科目および単位数

学則第6条別表

授業科目および単位数（時間数）				
授業科目		履修 単位	履修 時間数	
基礎 分野	科学的思考の基盤			
	物理学	1	20	
	哲学	1	30	
	統計学	1	30	
	社会学	1	30	
	人間と生活・社会の理解			
	心理学	1	30	
	教育学	1	30	
	社会の中の倫理	1	30	
	ベッドサイドの倫理	1	30	
	平和と人権	1	30	
	英語	1	15	
	※ 世界の言語（中国語 韓国語 スペイン語）	1	15	
	※ 芸術（音楽・美術・写真）	1	15	
	※ 野外活動 1（キャンプ・スキー）	1	20	
	※ 野外活動 2（キャンプ・スキー）	1	20	
	※ 野外活動 3（キャンプ・スキー）	※選択 1	20	
小 計		15	365	
専門 基礎 分野	人体の構造と機能			
	看護生物学	1	15	
	解剖生理学Ⅰ	1	30	
	解剖生理学Ⅱ	1	30	
	解剖生理学Ⅲ	1	20	
	解剖生理学Ⅳ	1	30	
	解剖生理学演習	1	15	
	生化学	1	15	
	疾病の成り立ちと回復の促進			
	病気のしくみ	1	15	
	疾病論Ⅰ 運動・脳神経・アレルギー疾患と治療	1	30	
	疾病論Ⅱ 呼吸器・循環器・血液の疾患と治療	1	30	
	疾病論Ⅲ 消化器疾患と治療	1	30	
	疾病論Ⅳ 代謝・内分泌・腎・泌尿器疾患と治療	1	30	
	微生物学	1	30	
	薬理学	1	30	
	栄養学	1	15	
	臨床検査と放射線検査	1	30	
			16	395
	健康支援と社会保障制度			
	医療の歴史と発展	1	15	
	医療を取り巻く社会	1	15	
	公衆衛生学	1	15	
ヘルスプロモーション	1	15		
社会福祉制度	1	15		
社会福祉演習	1	30		
		6	105	
小 計		22	500	

授業科目		履修 単位	履修 時間数
専門 分野	基礎看護学		
	看護学入門	2	45
	看護職とキャリア	1	30
	ナースクリエイティブ	1	30
	看護理論	1	15
	健康的な日常生活を促進する援助技術 ①食事 ②排泄 ③清潔	2	60
	快適に過ごすための援助技術 ①環境 ②運動・活動・休息・リラクゼーション	1	30
	治療・処置に伴う援助技術	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	看護過程	1	15
	臨床判断演習	1	30
	看護の探求	2	45
		14	360
	地域・在宅看護論		
	私たちの地域と生活	1	30
	地域の暮らしを支援する法と制度	1	30
	地域で生活する人の心の理解	1	15
	地域看護	1	30
	多職種や地域とつながる看護	1	30
	在宅看護	1	15
		6	150
	成人看護学		
	成人期にある人の理解	1	30
	成人期にある人の疾病予防と看護	1	15
	健康を害した人への看護Ⅰ	2	45
	①病気別看護 ②呼吸器疾患のある人の看護 ③消化器疾患のある人の看護		
	④循環器疾患のある人の看護		
	健康を害した人への看護Ⅱ	1	30
	①内分泌・代謝疾患のある人の看護 ②脳神経疾患のある人の看護		
	③血液疾患のある人の看護 ④腎・泌尿器疾患のある人の看護		
	周手術期看護・がん看護	1	30
		6	150
	老年看護学		
	老年期にある人の人権と法律	1	15
	老年期にある人の理解	1	30
	老年期にある人への看護	1	30
		3	75
	小児看護学		
	子どもの人権と社会	1	15
	子どもの病気	1	30
	子どもの病気と障がいに対する看護	1	30
		3	75
	母性看護学		
	ウィメンズヘルス	1	30
	周産期にある人の理解	1	30
	周産期ある人への看護	1	30
		3	90
	精神看護学		
	心の病気と治療	1	30
	対人関係論	1	30
	心病む人への看護	1	30
		3	90

授業科目		履修 単位	履修 時間数
専門分野	看護の統合と実践		
	国際看護学・災害看護学	1	30
	医療安全	1	15
	看護情報とICT	1	15
	看護の統合演習	1	20
		4	80
	領域横断科目		
	人間の発達と看護	1	15
	終末期と看護	1	15
	薬物療法と看護	1	15
専門分野	保健指導技術	1	30
	リハビリテーションと看護	1	15
		5	90
	臨地実習		
	基礎看護学		
	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90
		4	180
	地域・在宅看護論		
	地域看護学実習Ⅰ	1	30
	地域看護学実習Ⅱ	1	45
		2	75
	成人看護学		
	成人看護学実習Ⅰ	2	60
	成人看護学実習Ⅱ	2	90
	老年看護学		
	老年看護学実習Ⅰ	1	45
	老年看護学実習Ⅱ	2	90
	老年看護学実習Ⅲ	1	45
		8	330
	小児看護学		
	小児看護学実習Ⅰ	1	30
	小児看護学実習Ⅱ	1	45
		2	75
	母性看護学		
	母性看護学実習	2	75
		2	75
	精神看護学		
	精神看護学実習Ⅰ	1	30
	精神看護学実習Ⅱ	1	45
		2	75
	看護の統合と実践		
	看護の統合と実践実習Ⅰ	1	45
	看護の統合と実践実習Ⅱ	1	45
	看護の統合と実践実習Ⅲ	2	90
		4	180
	小 計	71	990
	合 計	108	3015

※選択必須科目 各科目 一つ選択

世界の言語	:	・スペイン語	・中国語	・韓国語
芸術	:	・美術	・音楽	・写真
野外活動１・２・３	:	・キャンプ	・スキー	

カリキュラム進度表

		科 目 名	講師	単位	時間	学年	1年		2年		3年		評価形式			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	筆記試験	総合評価	レポート評価	評価表
基礎分野 15単位	科学的 基盤 思考	物理学	竹内 智	1	20	1	20					○				
		哲学	石神 慧	1	30	1		30						○		
		統計学	本間 隆之	1	30	3					30		○			
		社会学	鈴木 健之	1	30	3					30			○		
	人間と生活・社会の理解	心理学	文珠 紀久野	1	30	1	30					○				
		教育学	高橋 英児	1	30	3					30				○	
		社会の中の倫理	橋爪大輝、押領司民	1	30	1		30							○	
		ベッドサイドの倫理	内藤恵一、山田章子他	1	30	3					30				○	
		平和と人権	押領司民、白神優理子他	1	30	1	30						○			
		英語	三満田 美恵	1	15	2			15				○			
		世界の言語(中国語)	林 吟貞	1	15	2			15					○		
		世界の言語(韓国語)	洪 昌憲													
		世界の言語(スペイン語)	堀内・カロラ・エミ													
		芸術(音楽)	星 ひろ美	1	15	1	15							○		
		芸術(美術)	内海 仁美													
		芸術(写真)	清水 良二													
		野外活動1	川村 協平	1	20	1	20							○		
		野外活動2	川村 協平	1	20	2			20					○		
		野外活動3	川村 協平	1	20	3					20			○		
				単位			5	2	3	0	5	0	4	7	4	
				小計		単位	時間数	115	60	50	0	140	0			
				合計		15	365		175	50	140					

		科 目 名	講 師	単 位	時 間	学 年	1年		2年		3年		評価形式			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	筆記試験	総合評価	レポート評価	評価表
専門基礎分野 22単位	人体の構造と機能・	看護生物学	中山 みきこ	1	15	1	15						○			
		解剖生理学Ⅰ からだの支持と運動・情報の処理と受容のしくみ	宇賀貴紀、鈴木美緒 新藤裕治	1	30	1	30						○			
		解剖生理学Ⅱ 呼吸・循環・造血機能のしくみ	渡邊 裕、成島 美里 小泉 京子	1	30	1	30						○			
		解剖生理学Ⅲ 消化と吸収・防御機能のしくみ	内藤恵一、丸山陽子	1	20	1	20						○			
		解剖生理学Ⅳ 内分泌・体液調整・生殖のしくみ	宇賀貴紀、円道賀代子	1	30	1	30						○			
		解剖生理学演習	中山 みきこ	1	15	1		15						○		
		生化学	中山 みきこ	1	15	1		15					○			
	疾病の成り立ちと回復の促進	病気のしくみ	岡林 美鈴	1	15	1		15					○			
		疾病論Ⅰ 運動・脳神経・アレルギー疾患と治療	三井一義、滝瀬康洋 森澤朋子	1	30	1		30					○			
		疾病論Ⅱ 呼吸器・循環器・血液疾患と治療	石原裕、森澤朋子 浅川英一、望月ひとみ 大島智恵	1	30	1		30					○			
		疾病論Ⅲ 消化器疾患と治療	消化器内科医、外科医	1	30	1		30					○			
		疾病論Ⅳ 内分泌・代謝・腎、泌尿器疾患と治療	血液浄化室看護師	1	30	2			30				○			
		微生物学	渡辺 浩二	1	30	1	30						○			
		薬理学	白倉 洋郎	1	30	2			30				○			
		栄養学	管理栄養士	1	15	3					15		○			
		臨床検査と放射線検査	臨床検査技師 放射線技師	1	30	1		30					○			

		科 目 名	講師	単位	時間	学年	1年		2年		3年		評価形式			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	筆記試験	総合評価	レポート評価	評価表
専門基礎分 22単位	健康支援と社会保障制度	医療の歴史と発展	内藤恵一、諏訪部農 河西光子	1	15	1	15							○		
		医療を取り巻く社会	内田芳江、河西光子	1	15	3					15			○		
		公衆衛生学	山北満哉	1	15	3					15		○			
		ヘルスプロモーション	鈴木美緒	1	15	2				15				○		
		社会福祉制度	病院MSW 丸山陽子	1	15	3					15			○		
		社会福祉演習	丸山陽子	1	30	3					30				○	
				単位			7	7	3	0	5	0	16	5	1	
		小計		単位	時間数		170	165	60	15	90	0				
		合計		22	500		335		75		90					

		科 目 名	講 師	単 位	時 間	学 年	1 年		2 年		3 年		評価形式			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	筆記 試験	総合 評価	レポート 評価	評価表
専門分野 42単位	基礎看護学	看護学入門	河西光子、押領司民 藤本未央、文珠紀久野	2	45	1	45							○		
		看護職とキャリア	押領司民、病院看護師長	1	30	3					30				○	
		ナースクリエイティブ	成島美里	1	30	1		30						○		
		看護理論	藤本未央	1	15	1		15						○		
		健康的な日常生活を 促進する援助技術	坂井美紗、丸山陽子 円道賀代子	2	60	1	60						○			
		快適に過ごすための 援助技術	浅川歩、丸山 陽子	1	30	1	30						○			
		治療・処置に伴う援助技術	円道賀代子	1	30	2				30			○			
		フィジカルアセスメント	成島美里	1	30	1	20	10					○			
		看護過程	宮川江里	1	15	1		15						○		
		臨床判断演習	成島美里	1	30	2				30				○		
		看護の探求	押領司民、小泉京子	2	45	1		45						○		
	地域・在宅看護論	私たちの地域と生活	宮川江里	1	30	1		30						○		
		地域の暮らしを支援する 法と制度	鈴木美緒、鈴木勝利	1	30	1		30						○		
		地域で生活する人の 心の理解	浅川歩、齊藤 徳仁	1	15	1		15					○			
		地域看護	鈴木美緒	1	30	2				30					○	
		多職種や地域と つながる看護	宮川江里	1	30	3					30			○		
		在宅看護	宮川江里	1	15	3					15			○		
	成人看護学	成人期にある人の理解	藤本未央、富永弘徳 地域連携室看護師	1	30	2			30					○		
		成人期にある人の 疾患予防と看護	藤本未央 健診センター看護師	1	15	2			15					○		
		健康を害した人への看護Ⅰ ①呼吸器疾患のある人の看護 ②消化器疾患のある人の看護 ③循環器疾患のある人の看護	河西光子、藤本未央 坂井美紗	2	45	1		45					○			
		健康を害した人への看護Ⅱ ①内分泌・代謝疾患のある人の看護 ②脳神経疾患のある人の看護 ③血液疾患のある人の看護 ④腎・泌尿器疾患のある人の看護	新藤裕治、大島智恵 小泉京子、病院看護師	1	30	2			30				○			
		周手術期看護・がん看護	小池賀津江 山田章子、病院外科看護師	1	30	2				30			○			

専 門 分 野	4 2 単 位	科 目 名	講 師	単 位	時 間	学 年	1年		2年		3年		評価形式				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	筆記 試験	総合 評価	レポート 評価	評価表	
老年看護学		老年期にある人の 人権と法律	坂井美紗	1	15	3					15			○			
		老年期にある人の理解	坂井美紗 橋本晶子、神田藍	1	30	1		30					○				
		老年期にある人への看護	坂井美紗、認知症認定看護師 ケアマネージャー	1	30	2			30				○				
小児看護学		子どもの人権と社会	丸山陽子	1	15	1		15					○				
		子どもの病気	鶴田真、鎌田康弘、上嶋准 嗣 大島智恵、丸山陽子	1	30	2			30				○				
		子どもの病気と障がい に対する看護	丸山陽子 小児リハセラピスト 小児科病棟・外来看護師	1	30	2				30			○				
母性看護学		ウィメンズヘルス	円道賀代子、松上まどか	1	30	2			30				○				
		周産期にある人の理解	林怜、鶴田統子、松上まど か	1	30	2			30				○				
		周産期にある人への看護	円道賀代子、病院看護師	1	30	2			30				○				
精神看護学		心の病気と治療	佐藤琢也、野田北斗 山下徹他	1	30	3					30		○				
		対人関係論	日本臨床心理研究所スタッ フ 浅川歩	1	30	1	30							○			
		心病人への看護	浅川歩、病院看護師他	1	30	3					30		○				
看護の 実践の 統合と		国際看護学・災害看護学	宮本和子、坂井美紗 病院看護師	1	30	2				30				○			
		医療安全	病院看護師	1	15	1		15					○				
		看護情報とICT	秋山謙一、押領司民	1	15	1		15						○			
		看護の統合演習	藤本未央他	1	20	3						20		○			
				単位				8	13	10	4	6	1	19	17	2	
小計				単位	時間数			185	310	225	180	150	20				
合計				42	1070			495		405		170					

領 域 横 断 科 目 5 単 位	人間の発達と看護	丸山陽子、各領域担当教員	1	15	1	15							○			
	終末期と看護	鈴木彰英、深澤恵理子	1	15	2			15						○		
	薬物療法と看護	河西光子、各領域担当教員	1	15	2				15				○			
	保健指導技術	鈴木美緒、各領域担当教員	1	30	3					30					○	
	リハビリテーションと看護	大坪優太、病院セラピスト 浅川歩	1	15	2			15					○			
				単位			1	0	3	0	1	0	3	1	1	
		小計	単位	時間数			15	0	30	15	30	0				
		合計	5	90			15		45		30					

		実習期間・実習場所	単位	時間	学年	1年		2年		3年		評価形式	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	評価表	総合評価
臨 地 実 習 2 4 単 位	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	病院	1	45	1	45						○
		基礎看護学実習Ⅱ	病院	1	45	1	45						○
		基礎看護学実習Ⅲ	病院	2	90	1		90				○	
	在宅看護学	地域看護学実習Ⅰ	診療所 市町村保健センター	1	30	3				30			○
		地域看護学実習Ⅱ	訪問看護ステーション	1	45	3					45		○
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	施設・地域	1	45	1	45						○
		老年看護学実習Ⅱ	病院	2	90	2			90			○	
		老年看護学実習Ⅲ	病院	1	45	3				45			○
	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	地域、血液浄化室 健診センター	2	60	2			60				○
		成人看護学実習Ⅱ	病院	2	90	2				90		○	
	小児看護学	小児看護学実習Ⅰ	保育園	1	30	2			30			○	
		小児看護学実習Ⅱ	病院、児童発達支援事業所	1	45	2				45			○
	母性看護学	母性看護学実習	病院、助産院 産前産後ケアセンター	2	75	2				75			○
	精神看護学	精神看護学実習Ⅰ	短期入所施設 自立支援継続支援 障がい者就業生活支援センター	1	30	3					30		○
		精神看護学実習Ⅱ	病院	1	45	3					45		○
	看護と実践の統合	看護の統合と実践実習Ⅰ	病院	1	45	3					45		○
		看護の統合と実践実習Ⅱ	病院	1	45	3					45		○
		看護の統合と実践実習Ⅲ	病院	2	90	3					90	○	
				単位		2	3	3	7	5	4	4	13
		小計	単位	時間数		90	135	90	300	195	180		
		合計	24	990		225		390		375			

合 計	単位 合計	総 時 間	1年次		2年次		3年次		評価形式			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	筆記 試験	総合 評価	レポ ート 評価	評価 表
			23	25	22	11	22	5				
			600	645	515	495	560	200				
	108	3015	1245		1010		760		42	43	9	4

1年次 評価科目及び評価方法

	評価科目	単位(時間数)	評価方法	評価時期			評価科目	単位(時間数)	評価方法	評価時期	
				前期	後期					前期	後期
基礎分野	物理学	1(20)	筆記試験	○		専門分野	看護学入門	2(45)	総合評価	○	
	哲学	1(30)	レポート		○		ナースクリエイティブ	1(30)	総合評価		○
	心理学	1(30)	筆記試験	○			看護理論	1(15)	総合評価		○
	社会の中の倫理	1(30)	レポート		○		健康的な日常生活を促進する援助技術	2(60)	筆記試験	○	
	平和と人権	1(30)	総合評価	○			快適に過ごすための援助技術	1(30)	筆記試験	○	
	芸術	1(15)	総合評価	○			フィジカルアセスメント	1(30)	筆記試験	○	(○)
	野外活動Ⅰ	1(20)	総合評価	○	(○)		看護過程	1(15)	総合評価		○
専門基礎分野	看護生物学	1(15)	筆記試験	○			看護の探究	2(45)	総合評価		○
	解剖生理学Ⅰ	1(30)	筆記試験	○			私たちの地域と生活	1(30)	総合評価		○
	解剖生理学Ⅱ	1(30)	筆記試験	○			地域の暮らしを支援する法と制度	1(30)	総合評価		○
	解剖生理学Ⅲ	1(20)	筆記試験	○			地域で生活する人の心の理解	1(15)	筆記試験		○
	解剖生理学Ⅳ	1(30)	筆記試験	○			健康を害した人への看護Ⅰ	2(45)	筆記試験		○
	解剖生理学演習	1(15)	総合評価		○		老年期にある人の理解	1(30)	筆記試験		○
	生化学	1(15)	筆記試験		○		子どもの人権と社会	1(15)	筆記試験		○
	病気のしくみ	1(15)	筆記試験		○		対人関係論	1(30)	総合評価	○	
	疾病論Ⅰ	1(30)	筆記試験		○		医療安全	1(15)	筆記試験		○
	疾病論Ⅱ	1(30)	筆記試験		○		看護情報とICT	1(15)	総合評価		○
	疾病論Ⅲ	1(30)	筆記試験		○		人間の発達と看護	1(15)	筆記試験		○
	微生物学	1(30)	筆記試験	○		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1(45)	総合評価	○	
	臨床検査と放射線検査	1(30)	筆記試験		○		基礎看護学実習Ⅱ	1(45)	総合評価	○	
	医療の歴史と発展	1(15)	総合評価	○			基礎看護学実習Ⅲ	2(90)	評価表		○
							老年看護学実習Ⅰ	1(45)	総合評価	○	

		単位	科目
講義	筆記試験	25単位	23科目
	レポート評価	2単位	2科目
	総合評価	16単位	14科目
臨地実習		5単位	4科目
1年次 合計		48単位	43科目

2年次 評価科目及び評価方法

	評価科目	単位(時間数)	評価方法	評価時期			評価科目	単位(時間数)	評価方法	評価時期	
				前期	後期					前期	後期
基礎分野	英語	1(15)	筆記試験	○		専門分野	ウイメンヘルス	1(30)	筆記試験	○	
	世界の言語	1(15)	総合評価	○			周産期にある人の理解	1(30)	筆記試験	○	
	野外活動2	1(20)	総合評価	○	(○)		周産期にある人への看護	1(30)	筆記試験	○	
専門基礎分野	疾病論Ⅳ	1(30)	筆記試験	○			国際看護・災害看護	1(30)	総合評価		○
	薬理学	1(30)	筆記試験	○		領域横断科目	終末期と看護	1(15)	総合評価	○	
	ヘルスプロモーション	1(15)	総合評価	○			薬物療法と看護	1(15)	筆記試験	○	
専門分野	治療処置に伴う援助技術	1(30)	筆記試験	○			リハビリテーションと看護	1(15)	筆記試験	○	
	臨床判断演習	1(30)	総合評価		○	臨地実習	老年看護学実習Ⅱ	2(90)	評価表		○
	地域看護	1(30)	レポート評価	○			成人看護学実習Ⅰ	2(60)	総合評価	○	
	成人期にある人の理解	1(30)	総合評価	○			成人看護学実習Ⅱ	2(90)	評価表		○
	成人期にある人の疾病予防と看護	1(15)	総合評価	○			小児看護学実習Ⅰ	1(30)	総合評価	○	
	健康を害した人への看護Ⅱ	1(30)	筆記試験	○			小児看護学実習Ⅱ	1(45)	総合評価		○
	周手術期看護・がん看護	1(30)	筆記試験		○		母性看護学実習	2(75)	総合評価		○
	老年期にある人への看護	1(30)	筆記試験	○							
	子どもの病気	1(30)	筆記試験	○							
	子どもの病気と障がいに対する看護	1(30)	筆記試験		○						

		単位	科目
講義	筆記試験	14単位	14科目
	レポート評価	1単位	1科目
	総合評価	8単位	8科目
臨地実習		10単位	6科目
2年次合計		33単位	29科目

3年次 評価科目及び評価方法

	評価科目	単位(時間数)	評価方法	評価時期			評価科目	単位(時間数)	評価方法	評価時期	
				前期	後期					前期	後期
基礎分野	統計学	1(30)	筆記試験	○		領域横断 臨地実習	保健指導技術	1(30)	総合評価	○	
	社会学	1(30)	レポート評価	○			地域看護学実習Ⅰ	1(30)	総合評価	○	
	教育学	1(30)	レポート評価	○			地域看護学実習Ⅱ	1(45)	総合評価		○
	ベッドサイドの倫理	1(30)	レポート評価	○			老年看護学実習Ⅲ	1(45)	総合評価	○	
	野外活動3	1(20)	総合評価	○	(○)		精神看護学実習Ⅰ	1(30)	総合評価	○	
専門基礎分野	栄養学	1(15)	筆記試験	○							
	医療を取り巻く社会	1(15)	総合評価	○			精神看護学実習Ⅱ	1(45)	総合評価	○	
	公衆衛生学	1(15)	筆記試験	○			看護の統合と実践実習Ⅰ	1(45)	総合評価	○	
	社会福祉制度	1(15)	筆記試験	○			看護の統合と実践実習Ⅱ	1(45)	総合評価	○	
	社会福祉演習	1(30)	レポート評価	○			看護の統合と実践実習Ⅲ	2(90)	評価表		○
専門分野	看護職とキャリアⅡ	1(30)	レポート評価	○							
	多職種や地域とつながる看護	1(30)	総合評価	○							
	在宅看護	1(15)	総合評価	○							
	老年期にある人の人権と法律	1(15)	総合評価	○							
	心の病気と治療	1(30)	筆記試験	○							
	心病む人への看護	1(30)	筆記試験	○							
	看護の統合演習	1(20)	総合評価		○						

		単位	科目
講義	筆記試験	7単位	6科目
	レポート評価	5単位	4科目
	総合評価	4単位	4科目
臨地実習		10単位	5科目
3年次合計		27単位	26科目

科目名	心理学	授業形式	講義
履修年次	1年 前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	文珠紀久野	実務経験と 関連資格	元山梨県立大学看護学部教授 専門分野:発達心理学 臨床心理学 人間関係論 臨床心理士・教育修士 臨床心理士 歴40年
<到達目標> 1.人を心理学的にとらえることができる。 2.人の成長発達について理解できる。			
<授業内容> 第1回 心理学とは何か, 心理学の特徴 第2回 心理学の研究法 第3回 性格とはなにか, 性格を計る 第4回 性格の形成要因 第5回 心とはなにか, 心の構造と機能 第6回 心の防衛機制 第7回 学習理論, 学習の種類 第8回 記憶 第9回 人の発達原理, 発達に及ぼす要因 第10回 新生児期, 乳児期の特徴 第11回 幼児期の特徴 第12回 児童期の特徴 第13回 青年期の特徴 第14回 成人期の特徴 第15回 老年期の特徴, これまでのまとめ			
			<授業評価> 
<授業方法> ・基本的に『講義』形式で行います ・心理テスト等を使って、『自分の特徴』を知っていく方法を使います。 ・発達に関わるDVD等を視聴して, 理解を深めます			
<成績評価の基準> 筆記試験(70%)と授業態度(授業ごとに「今日のふりかえり」を記入し, その記入状況で判断する)(10%)とレポート(20%)で評価する。			
<必携図書> 特にありません			
<自己学習のポイント及び参考図書習> ・参考にするとよい資料や本は, 授業で紹介します。ぜひ読んでおいてください。 ・「教育心理学」「発達心理学」とある本を読んでおくことをおすすめします。 ・母子手帳, 小さい頃の写真やビデオ, 通知表など「過去の自分」が記録されたものがあれば, 見直してください。			
<履修上の注意点>			
<学生に向けてのメッセージ> 心理学は『自分を知る』チャンスになります。ぜひ興味をもって取り組んでください。			

科目名	芸術(音楽)		授業形式	講義
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	星ひろ美	実務経験と 関連資格	ジュニア及びシニアの合唱指導 元小中学校音楽教師	
<到達目標> 芸術活動をととして, 豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。				
<授業内容> 第1回 ガイダンス 鑑賞と歌唱練習(学院歌ほか) 2時間 第2回～6回 歌唱練習 音楽の基礎(簡易な音楽理論) 鑑賞活動 10時間 第7回・8回 施設で実習(歌の発表・交流) 3時間 <授業評価> 				
<授業方法> 授業は主として施設での歌の発表・交流に向けて歌唱活動を中心に行う。(併せて鑑賞も行う)場所は講堂。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書> 特にありません。				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<履修上の注意点> その都度楽譜が配布されるので楽譜をストックできる「 ファイル(A4サイズ) 」を用意する				
<学生に向けてのメッセージ> 将来的に患者(相手)の心に寄り添える、心の中を聞く姿勢を身につけてほしい。				

科目名	芸術(美術)		授業形式	講義・実技
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	内海仁美	実務経験と 関連資格	版画家	
<到達目標> 1. 芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。 2. 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心を培い、心豊かな生活を創造していく意欲を育てる。				
<授業内容> 第1回 「鉛筆や絵の具で描く」身の周りの物を描く 6B鉛筆でひとふで描きを試みる 色鉛筆を使い色による表現を 第2回 「絵具を使って描く」鉛筆や色鉛筆で好きなものを描き、絵の具で採色する 第3回 「カラーペンを使って描く」好きなものをモチーフに模様との組み合わせなどをして自由な表現を楽しむ 第4回 「紙版画を作ろう」①ドライポイントペーパーを使い版画の楽しさを体験する 下図作り、製版 第5回 「紙版画を作ろう」②プレス機を使って刷ってみる 第6回 「モダンテクニックを楽しむ」コラージュなど ドローイングやコラージュなどの組み合わせで自分らしい世界を表 これまでの作品とのコラボレーションもOK 第7回 「額装、鑑賞」 第1回～6回まで2時間、第7回は3時間				
<授業評価> 				
<授業方法> 必要なものを用意し、内容説明後創作活動に入る。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書> 特にありません				
<自己学習のポイント及び参考図書> 美術館に足を運んだり画集を見る。画材屋さんや本屋さんのアートコーナーに行くなど、芸術に触れる機会を増やす。				
<履修上の注意点> 授業に必要なもの:第1回～3回:スケッチブック(A3くらい)、消しゴム、色鉛筆、あれば絵具、書きたい雑貨 第4・5回:マスキングテープ ゴム手袋 第6回:スティックのり はさみ スケッチブック 他に貼りたいもの(紙や布があれば) 汚れても良い服装か、エプロンの着用を勧めます。				
<学生に向けてのメッセージ> 楽しんで、リラックスして授業に参加してください。まだ知らない自分の可能性を拓けていきましょう。				

科目名	芸術(写真)		授業形式	講義・実技
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	清水良二	実務経験と 関連資格	フォトグラファー	
<到達目標> 1. 芸術活動をとおして、豊かな感性・協調性・創造性・表現力を養う。 2. 基礎的な映像表現について学び、楽しく創造的な表現活動に取り組む。 3. 被写体が持つ魅力、その背景や文化に触れることで、多様な物の見方、考え方について学ぶ。				
<授業内容> 第1回 写真がもつ芸術的な意味について考える 2H 第2・3回 様々な作品を見て、自分の興味がある作品を知る。被写体が持つ魅力、その背景や文化に触れる 4H 第4回 自分を表現する方法として、写真を撮る技術を学ぶ 2H 第5・6回 写真を撮り、他者に表現する 4H 第7・8回 それぞれの写真を鑑賞する 3H				
<授業評価> 				
<授業方法> 様々な作品を見て、写真の芸術的な意味について考えます。自分なりの表現で語ったり、他の人の感じ方、考え方に触れます。 写真の基礎的な技術について学び、実際に自分で撮影します。 自分が撮影した作品や他の人が撮影した作品を鑑賞します。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書>				
<自己学習のポイント及び参考図書> 芸術に触れる機会を増やす。自分が気に入った写真を集める。				
<履修上の注意点> 授業に必要なもの: 写真が撮れるもの(スマートフォン、カメラなど)				
<学生に向けてのメッセージ> 楽しんで授業に参加してください。写真はジャンルが広いので、人のポートレート、風景写真、旅行のスナップ写真、家族の記念写真など、色々なことに目を向ける授業にしていきたいと思います。自分の興味の可能性を広げて下さい。				

科目名	野外活動 1(キャンプ)		授業形式	講義、校外活動
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(20時間)
授業担当者	川村協平	実務経験と 関連資格	NPO法人幼児野外教育研究会共同代表 山梨大学教育学部名誉教授(野外教育学)	
<到達目標> 1. 野外活動を通じた身体活動、集団生活の体験から、自己の生活や心身の健康について考えることができる。 2. 自然との好ましい関わりを体験し、仲間と心地よい生活を送るために、自己と他者の役割を意識しながら行動することができる。				
<授業内容> 第1回 オリエンテーション(学内) 2H 第2回 キャンプもしくはスキーのオリエンテーション(学内) 2H 第3回～第4回 グループ活動(1日目) 6H 第5回～第6回 グループ活動(2日目) 6H 第7回～第8回 お好み活動(3日目) 4H				
<授業評価> 				
<授業方法> 例年2泊3日のキャンプとスキーのいずれかを選択し野外活動を経験する。 2泊3日の野外活動を経験する。 キャンプの活動は班別行動となる。 各班に1名のカウンセラーがつき活動を行う。 場所は、丹波山、八ヶ岳、朝霧、高遠、武田の杜(健康の杜)等のキャンプ場のいずれかで行う。 事前に「保健体育全体オリエンテーション」2H 「キャンプオリエンテーション」2Hがあるため、必ず参加すること。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。 キャンプ終了後、体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に、テーマ・期生・No.・氏名を記入する。 レポートはA4サイズ800字以上、レポートテーマ「キャンプ前の私とキャンプ後の私」を指定の期日までに提出する。				
<必携図書>				
<自己学習のポイント及び参考図書> 事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。				
<履修上の注意点> 事前準備として健康管理・備品の準備を行う。 また安全のため、日常生活でできるウォーキングや自転車など、筋力トレーニングをしておく。				
<学生に向けてのメッセージ> 野外活動を通して、自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。				

科目名	野外活動Ⅰ（スキー）		授業形式	講義、校外活動
履修年次	1年 後期		単位数（時間数）	1単位（20時間）
授業担当者	川村協平	実務経験と 関連資格	NPO法人幼児野外教育研究会共同代表 山梨大学教育学部名誉教授（野外教育学）	
<到達目標> 1. 野外活動を通じた身体活動，集団生活の体験から，自己の生活や心身の健康について考えることができる。 2. 自然との好ましい関わりを体験し，仲間と心地よい生活を送るための自己の行動や役割を考えることができる。				
<授業内容> 第1回 オリエンテーション（学内） 2H 第2回 スキーのオリエンテーション（学内） 2H 第3回～第4回 グループ活動（1日目） 6H 第5回～第6回 グループ活動（2日目） 6H 第7回～第8回 グループ活動（3日目） 4H				
<授業評価> 				
<授業方法> キャンプかスキーを選択し2泊3日，野外活動を経験する。場所は志賀高原木戸池 横手山のスキー場で行う。 活動は1・2学年の縦割りでスキーのレベルに応じた班で行う。班には1名のカウンセラーがつく。 5月に「野外活動全体オリエンテーション」2H 12月に「スキーオリエンテーション」2Hがあるため，必ず参加すること。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。 スキー終了後，体験を振り返ってレポートを記載する。表紙に，テーマ・期生・No.氏名を記入する。 レポートはA4サイズ800字以上，指定の期日までに提出する。				
<必携図書> 特にありません				
<自己学習のポイント及び参考図書> 事前学習として野外関連の文献を読むことを勧める。				
<履修上の注意点> スキーに向けて健康管理をすること。スキーオリエンで説明された備品の準備を各自ですすめる。 また安全のため，日常生活でできるウォーキングや自転車など，筋力トレーニングをしておく。				
<学生に向けてのメッセージ> 野外活動を通して，自然・仲間・自分自身のすばらしさを感じましょう。				

科目名	病気のしくみ		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	岡林 美鈴	実務経験と 関連資格	甲府共立病院 病理医	
<到達目標> 1.解剖生理学, 生化学の学習を基礎に, 疾病の病態を化学的に捉えることができる。 2.疾病の病態が患者にどのような症状として現れてくるのか学ぶことができる。 3.実際の病変を見ながら, 病気のしくみについて理解を深める。				
<授業内容> 第1回 第1章「看護と病理学」「病因論」「死因別死亡数の統計から」 2H 第2回 第2章「細胞・組織の障害と修復、炎症」 2H 第3回 第3章「充血とうっ血」「出血と止血」 2H 第4回 標本館見学 2H 第5回 第5章「血栓症」「塞栓症」「虚血と梗塞」「ショック」「浮腫(水腫)」 2H 第6回 第6章「代謝障害」 2H 第7回・第8回 第9章「腫瘍」 3H				
<授業評価> 				
<授業方法> 講義はすべて教室で行います。				
<成績評価の基準> 筆記試験(90%)と、標本館見学のレポート(10%)で評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・解剖生理学Ⅰ・Ⅱの授業を復習しながら, 理解を深めていく。 ・医学映像セレクトの視聴: 事前学習や復習に活用するとより効果的な学びとなる。 ①「看護教育シリーズ 看護のための病態生理とアセスメント<呼吸・循環> 浮腫・脱水」 ②「看護教育シリーズ 看護のための病態生理とアセスメント<呼吸・循環> ショック」				
<履修上の注意点> ・復習および理解の浅かった事柄などを, 参考書で調べて理解を深めること。				
<学生に向けてのメッセージ> 将来看護師として働くために多くの病気の知識が必要ですが, ただ知識の丸暗記では理解することは難しいです。それぞれの病気についてなぜ? どうして? と疑問を持ち, 原因や病気の成り立ちを追求していくことが大切です。みなさんがこれから求められる「科学的に理解する」の根幹をともに学んでいきましょう。				

科目名	疾病論 I		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	三井一義 森澤朋子 滝瀬康洋	実務経験と 関連資格	三井一義 (甲府共立病院 整形外科医) 森澤朋子 (山梨病院 呼吸器内科医) 滝瀬康洋 (甲府共立病院 神経内科医)	
1. 整形外科疾患, 脳神経疾患, アレルギー性疾患, 感染症, 膠原病の症状, 病態生理, 経過, 検査, 治療法について学ぶ。				
<授業内容> 運動器疾患と外科的治療 講師:三井一義 10H 第1回 看護を学ぶにあたって 2H 第2回 骨について 2H 第3回 症状と病態生理 2H 第4回・5回 疾患の理解 4H アレルギー性疾患・感染症・膠原病 講師:森澤朋子 8H 第6・7回 アレルギー性疾患・膠原病 4H 第8回 感染症1 感染症の一般 2H 第9回 感染症2 主な感染症(エイズ・結核) 2H 脳神経疾患 講師:滝瀬康洋 12H 第10回 脳の解剖、運動神経 神経の通り方、伝わり方 2H 第11回・12回 多発性神経炎からヘルペス脳炎 髄膜炎 てんかん 4H 第13回・14回 脳神経疾患 認知症 脳血管疾患 4H 第15回 神経疾患の診断 脱髄疾患 変性疾患 2H				
				<授業評価> 
<授業方法> 教科書及び授業で配布する資料を使い、パワーポイントに沿って講義する。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・改訂 目で見るからだのメカニズム, 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学, 医学書院				
<履修上の注意点> ・復習および理解の浅かった事柄などを, 参考書で調べて理解を深める。 ・今までに学習した「解剖生理学」などの専門基礎分野に関する授業を復習して授業に臨む。 ・「運動器疾患と外科的治療 講師:三井一義」の授業では, 成人看護学⑩「運動器」医学書院 を忘れずに持ってくる。				
<学生に向けてのメッセージ> 慢性的な経過をたどり, 長期にセルフケアを必要とする機能障害(内分泌・代謝機能障害, 脳・神経, 運動機能障害)をもつ患者の病態や治療による生活への影響を理解し, 必要な看護援助を判断するためのアセスメント方法と, 健康問題解決のための具体的看護支援について学習しましょう。				

科目名	疾病論Ⅱ		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	古田潤平 浅川英一 石原裕 森澤朋子 大島智恵 望月ひとみ	実務経験と 関連資格	古田潤平（甲府共立病院外科医師）浅川英一（甲府共立病院内科医師）石原裕（笛吹中央病院呼吸器内科医師）森澤朋子（山梨病院呼吸器内科医師）望月ひとみ（集中ケア認定看護師）大島智恵（造血細胞移植コーディネーター 看護師）	
<到達目標> 1.呼吸器疾患と循環器疾患、血液疾患の症状、病態生理、経過、検査、治療法について学ぶ。				
<授業内容> 呼吸器疾患 12H 講師:石原裕(6H) 森澤朋子(4H) 古田潤平(2H) 第1回 呼吸器の機能と構造 2H 第2回・第3回 検査と治療処置 気管支内視鏡検査、生検、呼吸機能検査 酸素療法 4H 第4回・第5回 疾患の理解(病態、診断、治療の特徴を含む) インフルエンザ、肺炎、間質性肺炎、気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患、肺塞栓症、呼吸不全など 4H 第6回 外科的治療が必要な疾患の理解(病態、検査、診断の特徴を含む) 肺疾患 2H 外科医師 循環器疾患 12H 講師:浅川英一(4H) 望月ひとみ(8H) 第7回・第8回 疾患の理解(病態、検査、診断、治療の特徴を含む) 虚血性心疾患、不整脈、動脈・静脈疾患4H 第9回・第10回 疾患の理解(病態、検査、診断、治療の特徴を含む) 心不全、血圧異常、心筋疾患 4H 第11回・第12回 外科的治療が必要な疾患の理解(病態、検査、診断の特徴を含む) 虚血性心疾患、弁膜症 4H 血液疾患 6H 講師:大島智恵 第13回 血液の生理と造血のしくみ 2H 第14回 検査・診断と症候・病態生理 (貧血、白血球増加症・白血球減少症・脾腫・リンパ節腫脹・出血性素因) 3H 第15回 疾患の理解(病態、検査、診断、治療の特徴を含む) 3H				
				<授業評価> 
<授業方法> 講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学, 医学書院 ・改訂 目で見えるからだのメカニズム, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器, 医学書院 ・系統別看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器, 医学書院 ・系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> 医学映像セレクトの視聴 呼吸器疾患「看護 生体のしくみ(第3版)Vol.12 呼吸のしくみ」「医学 目で見える病気(第3版)Vol.10呼吸器系の疾患」 循環器疾患「看護 生体のしくみ(第3版)Vol.10、Vol.11 循環のしくみ」 「医学 目で見える病気(第3版)Vol.8循環器系の疾患」 血液疾患「看護 生体のしくみ(第3版)Vol.9 血液のしくみ」				
<履修上の注意点> 復習および理解の浅かった事柄などを、参考書で調べて理解を深めること。				
<学生に向けてのメッセージ> 将来看護師として働くために多くの病気の知識が必要ですが、ただ知識の丸暗記では理解することは難しいです。それぞれの病気についてなぜ?どうして?と疑問を持ち、原因や病気の成り立ちを追求していくことが大切です。みなさんがこれから求められる「科学的に理解する」の根幹をとともに学んでいきましょう。				

科目名	薬理学		授業形式	講義
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	白倉 洋朗	実務経験と 関連資格	薬剤師	

<到達目標>

1. 健康回復を促進させる薬物療法を理解するために薬物の基礎的性状および、作用・適用・調剤に関する基本的な事柄を理解する。

2. 健康回復を妨げないための薬物の安全と副作用に関して理解できる能力を養う。

<授業内容>

第1回 第1部 薬理学総論 第1章 薬理学を学ぶにあたって

第2回 第1部 薬理学総論 第2章A 薬力学

第3回 第1部 薬理学総論 第2章B 薬物動態学

第4回 第1部 薬理学総論 第2章C 薬物相互作用 第2章D 薬効の個人差に影響する因子

第5回 第1部 薬理学総論 第2章E 有益性と危険性

第6回 第1部 薬理学総論 第2章F 薬と法律 薬剤情報

第7回 第2部 薬理学総論 第3章 抗感染症薬

第8回 第2部 薬理学各論 第4章 抗がん剤 第5章 免疫治療薬

第9回 第2部 薬理学各論 第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬

第10回 第2部 薬理学各論 第7章 末梢での神経活動に作用する薬剤

第11回 第2部 薬理学各論 第8章 中枢神経系に作用する薬剤

第12回 第2部 薬理学各論 第9章 循環器に作用する薬剤

第13回 第2部 薬理学各論 第10章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬剤

第14回 第2部 薬理学各論 第11章 物質代謝に作用する薬剤

第15回 第2部 模擬問題の解説とまとめ

授業評価用QR



<授業方法>

講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。

<評価方法の詳細>

100点の筆記試験で評価する。

<必携図書>

「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

授業で使用したパワーポイントの資料と教科書の問題の見直しを行う。

実習等で扱った医薬品についての薬剤情報を、添付文書や医薬品集を使用して調べる。

参考図書:治療薬マニュアル(医学書院), 今日の治療薬(南江堂), PMDAホームページ(添付文書検索:
www.pmda.go.jp)

<履修上の注意点>

講義で配布する資料は一部空欄になっています。授業を聴きながら埋めていってください。

<学生に向けてのメッセージ>

医師は処方, 薬剤師は調剤や監査を行います, 最終的に投与するのは看護師の場合が多いです。

看護師は患者さんに安全安心な薬物療法を行うために重要な役割を担っています。

また, 投与後の薬剤の効果や副作用を正確に評価することも看護師の重要なスキルです。

科目名	栄養学		必修/選択の別	必修
授業担当者	梶原直樹	実務経験と 関連資格	病院勤務(管理栄養士)	
履修年次	3年 前期		評価方法	筆記試験
単位数(時間数)	1単位 (15時間)		授業形式	講義
<到達目標> 1. 生命活動を保障するために不可欠な栄養素の種類と生体内での代謝に関する知識を基に, 栄養摂取, 栄養と食生活と栄養について学ぶ。 2. 健康回復のために対象の病態に応じた病態栄養学について学び, 食事療法における指導的関わりに生かせるようにする。				
<授業内容> 第1回 栄養食事療法とは, 栄養食事療法の実際 2H 第2回 症状を持つ患者の栄養食事療法 2H 第3回 循環器疾患患者の栄養食事療法 2H 第4回 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 2H 第5回 腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法 2H 第6回 消化器疾患患者の栄養食事療法 2H 第7回・第8回 術前・術後の栄養管理 経腸栄養剤, 補助食品について 3H				
			授業評価用QR 	
<授業方法> 講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。				
<評価方法の詳細> 授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。				
<必携図書> 足立香代子他「系統看護学講座 別巻 栄養食事療法」				
<自己学習のポイント及び参考図書>				
<履修上の注意点>				
<学生に向けてのメッセージ> 看護者は対象の健康状態をアセスメントし, 健康への回復また健康生活の維持・増進するための援助を行います。その中で栄養に関する指導は重要です。看護者が栄養学の知識をもつことによって疾病を予防し, 疾病を回復するため援助が広がります。				

科目名	看護学入門		授業形式	講義・演習
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
授業担当者	河西光子 押領司民 宮川江里 藤本未央 文珠紀久野	実務経験と 関連資格	河西(副学院長 看護師 病院勤務歴8年) 押領司(看護専任教員 看護師 看護学博士 病院勤務歴6年) 宮川(看護専任教員 看護師 病院・訪問看護ステーション勤務8年) 藤本(看護専任教員 保健師 病院勤務歴5年) 文珠紀久野(元山梨県立大学看護学部教授)	
<到達目標> 1. 看護の対象となる人間を理解し、権利としての健康について学ぶ。 2. 看護の変遷をたどりながら、看護の本質を学び、現代社会の患者・利用者の多様な医療ニーズをとらえ看護について考えることができる。 3. 看護技術は専門的な知識に基づいて、対象の安全・安楽、自立・個性を目指した意図的・直接的な看護行為であることを学ぶ。 4. 看護における「技術」の意味を学び、自己の看護技術を修得し向上することができる。 5. カウンセリング理論を理解し、カウンセリング技法を活用できる				
<授業内容> 看護の対象理解・看護技術 32H 講師:河西 押領司 藤本 宮川 第1回 看護とは何か 2H 押領司 第2回～第5回 看護の歴史、看護における倫理と法、専門職としての看護 8H 講師:河西 第6回～第8回 人間科学としての看護学 看護における主要概念 看護の役割と機能 6H 講師:宮川 第9回・第10回 技術とは、看護技術の特徴・範囲、看護技術を適切に実践するための要素、その発展と修得 4H 講師:藤本 第11回・第12回 基礎看護技術のまとめおよびグループ演習 4H 講師:藤本 第13回・第14回 技術チェック(ベッドメイキング、清潔、排泄援助) 4H 講師:藤本 第15回・第16回 技術チェック(バイタルサイン測定) 4H 講師:藤本 カウンセリング理論と技法 13H 講師:文珠紀久野 第1回 カウンセリングとは何か、カウンセリングの基本概念・カウンセリングの過程 4H 第2回 カウンセリングの主要理論(来談者中心療法・認知行動療法等)・カウンセリングの基本 第3回 演習 相手の話を聴く技法(1) 2H 第4回 演習 相手の話を聴く技法(2) 3H				
<授業方法> ・講義と演習で形式で行います。演習ではロールプレイを実施する。 ・看護技術チェック 技術テストを受ける。合格できなかった者は実習前までに技術の再チェックを受ける。 ・カウンセリングは「自分への理解」が基礎となります。「自己理解ノート」を使って理解を深めます。 ・1対1、グループでの関わりを通して理解を深めます。				
<成績評価の基準> ・授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。 ・カウンセリング理論と技法では、授業態度(授業ごとに「今日のふりかえり」を記入し、その記入状況で判断する)(10%) テスト(70%)・演習を通したレポート(20%)。				
<必携図書> 1. 新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論, メジカルフレンド社 2. 日本看護協会監修;看護者の基本的責務, 日本看護協会編 3. F.ナイチンゲール;看護覚え書～看護であること, 看護でないこと～, 現代社 4. 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院 「3年生 春のケースレポート」				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・参考にするとよい資料や本は、授業で紹介します。ぜひ読んでおいてください。心理学における『性格』『心の構造』『ストレス』の内容が基礎となりますので、十分復習しておいて下さい。				
<履修上の注意点> ・第1回～第10回は1.教科書の早に読むと授業を進め易い。また、4,5,6も授業で説明をします。事前に目を通しておいて下さい。 ・技術チェックは、評価基準をあらかじめ提示します。各自技術練習をして臨みましょう。 ・技術チェックに参加できなかった場合は、別日程でチェックを受ける必要があります。				
<学生に向けてのメッセージ> 看護って何だろう、看護師は何をする人なのか等、看護を学ぶ上で土台になる単元です。講義や実習での学びを通して看護とは何かを一緒に考えていきましょう。 看護技術の追求は看護の永遠のテーマです。看護技術について一緒に考えてみましょう。				



科目名	看護理論		授業形式	講義 演習
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	藤本未央	実務経験と 関連資格	藤本(看護専任教員 保健師 病院勤務歴5年)	

<到達目標>

1. 代表的な看護理論とその概念を学び、科学的に看護を展開するための考え方を身につけ看護実践に理論的な根拠がもてる力を養う。
2. 代表的な看護理論を学ぶことで、看護とは何かという問いに関する自己の考えを持つことができる。

<授業内容>

- 第1回 理論の定義、理論の種類、歴史と動向 2H
- 第2回～第6回 代表的な看護理論家(ヘンダーソン、ロイ、ウィーデンバック、オレム)の一人を選択し、理論の内容を
全体発表 発表では次の内容を含める 4H
- 1 理論の特徴、内容
 - 2 理論の活用可能性や限界
 - 3 学んだことや看護とは何か考えたこと

<授業評価>



<授業方法>

- 第1回は、パワーポイントを用いた講義形式で進める。
- 第2回～第6回は、個人でレポートを作成する。
- 第7回・第8回は、自分がまとめた理論家と他の理論家の内容を発表し、共有する。

<成績評価の基準>

授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。

<必携図書>

- ・新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論, メジカルフレンド社
- ・筒井真優美編集;看護理論－看護理論21の理解と実践への応用－ 改訂第3版, 南江堂

<自己学習のポイント及び参考図書習>

- ・アーネスティン・ウィーデンバック著;臨床看護の本質 改訳第2版, 現代社
- ・ヴァージニア・ヘンダーソン著;看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会
- ・ドロセアE.オレム著;オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版, 医学書院
- ・シスター・カリスタ・ロイ著;ロイ適応看護モデル序説 第2版, へるす出版
- ・F.ナイチンゲール;看護覚え書～看護であること, 看護でないこと～, 現代社
- ・川島みどり;きらり看護, 医学書院

<履修上の注意点>

- ・看護理論の発表は学術用語を用いて行いましょう。
- ・理論家の特徴を自分の言葉で分かりやすく表現して欲しいと思います。

<学生に向けてのメッセージ>

本単元を通して、理論的な看護実践を行うための基本的な力を養うことができると良いと願っています。

科目名	健康的な日常生活を促進する援助技術		授業形式	講義 校内実習
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	2単位(60時間)
授業担当者	坂井美紗 丸山陽子 浅川 歩	実務経験と 関連資格	坂井 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴4年) 丸山 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴13年) 浅川 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴15年)	

<到達目標>

1. 食事・排泄・清潔が人間の生命活動及び生活行動であることを理解できる。
2. 日常生活行動のアセスメントに必要な情報を理解でき、援助の必要性が判断ができる。
3. 疾病や障害により食生活に支障が出た場合の看護について理解することができる。
4. 安全・安楽・自立に配慮した根拠のある技術が実施できる。

<授業内容>

〔食事の援助技術〕 16H 講師:浅川 歩

第1回・第2回 食事援助の基礎知識 4H

第3回・第4回 食事療法を受けている患者の援助 4H

第5回・第6回 直接訓練と間接訓練 2H 食事支援に対する体験(校内実習) 2H

第7回・第8回 食事支援方法について考えよう 4H (校内実習)

〔排泄の援助技術〕 14H 講師:丸山陽子

第1回 排泄の基礎知識 2H

第2回・第3回 排泄援助に必要な視点、排尿・排便のアセスメントと援助の判断、排泄の正常異常を知る 4H

排泄援助の実際 対象者に合った排泄援助の検討方法、排泄の環境と使用物品、排泄ケア(導尿・浣腸・摘便)

第4回・第5回 床上排泄援助(おむつ交換:基本編) 4H

第6回・第7回 床上排泄援助(おむつ交換:応用編) 4H

〔清潔の援助技術〕 30H 講師:坂井美紗

第1回・第2回 清潔の基礎知識 清潔の意義を理解する、皮膚の構造と機能、援助計画立案の方法、入浴・全身清拭の方法 4H

第3回・第4回 清潔・衣生活に関する援助の方法(更衣・手浴・足浴・洗髪・陰部洗浄)、口腔の構造と口腔ケアの方法 4H

第5回 目的・根拠を意識した援助計画立案の実践(グループワーク) 2H

第6回・第7回 足浴・手浴の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H

第8回・第9回 更衣の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H

第10回・第11回 全身清拭の技術を学ぶ(校内実習) 4H

第12回・第13回 洗髪の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H

第14回・第15回 陰部洗浄の援助技術を学ぶ(校内実習) 4H

<授業評価>



<授業方法>

講義は教室でパワーポイントを使用して行う。解剖生理学Ⅰ・Ⅱの授業を復習して授業に臨むこと。

食事の第6.7.8回、排泄の第4～7回、清潔の第5～14回は実習室で校内実習を行う。

<成績評価の基準>

食事(25点)排泄(25点)清潔(50点)の3科目で合計100点の筆記試験で評価する。

食事の援助技術では、筆記試験(20点)と校内実習を通したレポート(5点)で評価する。(全2回、5点)

清潔の援助技術では、筆記試験(40点)と校内実習を通したレポート(10点)で評価する。(全5回、各2点)

<必携図書>

・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院

・看護技術プラクティス, Gakken

<自己学習のポイント及び参考図書> 事前学習(必修) 医学映像セレクトの視聴

「看護 実践!看護技術シリーズ Vol.4日常生活の援助技術編 食事の介助」

「看護 実践!看護技術シリーズ 診療にかかわる技術編 排尿・排便の援助」

「看護 実践!看護技術シリーズ 診療にかかわる技術編 浣腸・摘便」

「看護 実践!看護技術シリーズ 診療にかかわる技術編」清潔に関連するすべての動画。

<履修上の注意点>

校内実習は、前半の講義を踏まえた内容となる。講義やレジメを振り返り、内容を理解して臨むこと。

校内実習は代替が必要な授業であり、やむを得ず欠席となった場合には代替授業を行う必要がある。

<学生に向けてのメッセージ>

健康的な日常生活を促進する上でみなさんに大切にしてほしいことを授業で伝えていきたいと思っています。

またそれを踏まえ、校内実習や臨床実習に臨み、机上の学びを実践に活かせることも期待しています。

科目名	快適に過ごすための援助技術		授業形式	講義 校内実習	
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)	
授業担当者	円道 賀代子 丸山 陽子	実務経験と 関連資格	円道 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴25年) 丸山 (看護専任教員 看護師 病院勤務歴13年)		
<到達目標> 1. 入院している患者の安全と安楽を確保するための知識と援助技術を学ぶことができる。 2. 環境調整技術では、快適な療養環境を整えるための技術を獲得することが出来る 3. 活動・休息援助技術では、活動・休息・移動の基礎知識と実際を学ぶことができる。					
<授業内容> 〔環境調節技術〕 18H 講師:円道 賀代子 第1回・第2回 援助の基礎知識 4H 第3回・第4回 援助の実際 ベッド周囲の環境調整 4H 第5回・第6回 シーツ交換の基礎 4H 第7回・第8回 シーツ交換の応用 4H 第9回 環境整備演習 2H 〔運動・活動・休息・リラクゼーション〕 12H 講師:丸山 陽子 第10回・第11回 第4章 A 基本的活動の援助 4H 第12回・第13回 体位変換, 移乗, 移送の実際(校内演習) 4H 第14回・第15回 第4章 B 睡眠・休息の援助 4H					
				<授業評価> 	
<授業方法> 第1回～第4回、第10回、第11回、第14回、第15回はパワーポイントを使用し講義形式で行う。 第5回～第9回、第12、13回は実習室で校内演習を行う。					
<成績評価の基準> 環境調整技術(55点), 運動・活動・休息・リラクゼーション(45点)の2科目で合計100点の筆記試験で評価する。 環境調節技術では、筆記試験(40点)と校内実習を通したレポート(15点)で評価する。(全3回、各5点、)					
<必携図書> ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院					
<自己学習のポイント及び参考図書習> 患者さんの健康を守るためには環境を整える必要がある。そのためには、まず身の回りの環境に興味を持つことが大切である。看護学における環境とは、ナイチンゲールの「看護覚え書」を基礎に今もなお実践が行われている。 校内実習で行う環境整備やシーツ交換は、患者さんが療養生活を送る環境を整える大変重要な技術である。 授業時間に限らず、患者さんが快適に過ごせるベッド作りのための練習を重ね、技術を磨くこと。 校内実習前には、授業資料はもとより、教科書上のQRコードを用いて動画を視聴し援助をイメージして授業に臨む。 医学映像セレクトの視聴「看護 実践！看護技術シリーズ NCND-03 日常生活の援助技術編 体位変換」					
<履修上の注意点> 第5～9回の校内演習は代替が必要な授業であり、やむを得ず欠席となった場合には代替授業を行う必要がある。 第12回～第13回の校内演習は代替が必要な授業であり、やむを得ず欠席となった場合には代替授業を行う必要がある。					
<学生に向けてのメッセージ> 人間と環境の関係性について学び、環境を整えることが疾病を抱えて入院している患者にとってどのような影響があるか理解することができる。入院によって身の回りの環境が変化すること、療養環境が快適である必要性和そのために必要な技術を学びます。 活動と休息の援助は、どんな状況の患者でも必要な看護援助であり、看護の基本的な技術である。 7月の基礎実習から毎日活用できる看護技術であるため、練習を重ね技術習得することを期待している。					

科目名	フィジカルアセスメント		授業形式	講義 校内実習
履修年次	1年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	成島美里	実務経験と 関連資格	看護専任教員 病院勤務11年	

<到達目標>

看護専門職としての的確な判断と適切な技術を提供するための基礎となるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ

1. バイタルサインをなぜ見るか、メカニズムと関連させて理解することができる
2. バイタルサインの正常、異常を理解することができる
3. バイタルサイン技術の基本を身につけることができる
4. フィジカルアセスメントの意義、技術について理解することができる
5. 各症状を正確に観察するための方法を学ぶことができる。
6. 看護における観察・記録。報告の意義と注意点について理解することができる

<授業内容>

第1回・第2回	I.ヘルスアセスメントとは	4H
	II. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	
	1. 問診 2.健康歴の聴取 3.情報整理	
	III.全体の概要	
	1. フィジカルアセスメントに必要な技術 (A.視診 B.触診 C.聴診 D.打診)	
第3回・第4回	III.全体の概要	4H
	2.身体計測 A.体格 B.運動機能	
	3.バイタルサインの観察とアセスメント(A.体温 B.脈拍 C.血圧 D.呼吸 E.意識)	
第5回・第6回	IV.校内実習	4H
	1.バイタル測定の実施(A.体温 B.脈拍 C.血圧 D.呼吸 E.意識)	
	2.観察結果の記録と報告	
第7回・第8回	V.看護における観察・記録・報告	4H
第9回・第10回	VI. 系統的なフィジカルアセスメント(ケアにつなげるフィジカルアセスメント)	
	A.呼吸器 B.循環器 C.腹部・消化器	
第11回～第13回	VII.各症状別の観察方法 演習	6H
	「発熱」「黄疸」「呼吸困難」「浮腫」「貧血」などについて、グループワークで観察の仕方を調べてみる。	
	発表会に向けた発表準備	
第14回・第15回	発表会	4H
	各グループで調べた各症状の観察方法をロールプレイで発表する。	
	担当教員から補足の解説	

<授業方法>

第1回から第4回、第7回から第10回の授業はパワーポイントを使用し教室で講義を行う。

第5回・第6回の授業は白衣を着用し実習室で校内実習(学生同士でバイタル測定)を行う。

第11回～第13回 グループによる演習を行い、第14回・第15回で発表する。

<成績評価の基準>

筆記試験(80%)と演習への取り組みと発表(20%)で評価する。

<必携図書>

- ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院
- ・山内豊明;フィジカルアセスメントガイドブック 第1版, 医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書習>

バイタルサインはメカニズムに基づいて根拠を持って実践される技術である。解剖生理学で学ぶ、循環器、呼吸器、生体防御の授業を振り返り、メカニズムと関連させながら授業を受けるとよい。また、解剖生理や当該技術については、医学映像セレクトの視聴「看護 わかる！できる！バイタルサイン測定 体温・意識」「呼吸・脈拍・血圧援助を考える」上記を校内実習前後に視聴し、技術の予習復習に活用すること。

<履修上の注意点>

- ・第5回・第6回の校内実習は代替が必要な授業である。

<学生に向けてのメッセージ>

基礎看護学実習Ⅱでは初めて患者さんにバイタル測定を行います。バイタルサインは患者さんの状態を観察しその後のケアに繋げていく上で非常に重要な技術です。しかし、正しい値は正しい技術でなければ得られません。また、技術は 迅速かつ正確に、患者さんにとって苦痛が少ないことも重要です。繰り返し練習をしていきましょう。

科目名	看護過程	授業形式	講義 演習
履修年次	1年 後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
授業担当者	宮川江里	実務経験と 関連資格	看護専任教員 病院・訪問看護ステーション勤務8年
<到達目標> 1.看護を具体的に実践するための方法論の1つである看護過程の概要と意義について学ぶ。 2.看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。 3.演習を通して看護過程を展開する具体的な方法を個人およびグループワークを通して経験し考えることができる。			
<授業内容> 第1回・第2回 1.講義「看護過程とは 看護過程と関連図について」 2.電子カルテ「メディアイ」の説明 / 事例紹介 4H 課題:事例患者に関する「自己学習」、「情報整理用紙Ⅱ」、「関連図」の作成 第3回・第4回 1.事例を理解するための補足講義や質問対応 2.アセスメントの指定 3.講義「看護問題、目標の書き方」 4H 課題:事例患者に関する「情報整理用紙Ⅱ」、「関連図」の修正 「アセスメント」「看護問題、目標」の作成 第5回・第6回 担当教員からの課題の個別指導と自己学習 課題:事例患者に関する「情報整理用紙Ⅱ」、「関連図」、「アセスメント」「看護問題、目標」の修正 第7回・8回 1.講義「看護計画」「実践、結果、評価の書き方」 3H			
			<授業評価> 
<授業方法> 第1回～第4回、第7回～第8回は、講師作成の資料を活用し講義形式で行う。 第3回は提出された情報整理用紙の内容を返却すると共に、記載内容のポイントを講義した後、個人作業で演習を行う。 第5回・第6回は、提出されたレポートについて、担当教員による個別のレポート指導を行う。			
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。			
<必携図書> ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院			
<自己学習のポイント及び参考図書> 疾患別 看護過程セミナー 上巻 サイオ出版 疾患別 看護過程の展開(第5版) 学研 病気がみえる Vol.4 呼吸器 MEDIC MEDIA 看護過程に沿った対症看護 学研			
<履修上の注意点> ・講義と講義の間にレポート提出がある。レポート提出は期日内に提出すること。 ・本講義の内容は、基礎看護学実習Ⅲ、成人看護学実習Ⅱ、老年看護学実習Ⅱ、看護の統合と実践実習Ⅲなど、看護過程を展開する ・実習に直接影響する。そのため、本講義が履修出来ない場合は、これらの実習への参加が許可されない場合もある。			
<学生に向けてのメッセージ> 実習で患者さんから学ぶ看護学生として、誠実に課題に取り組んで欲しいと願っています。			

科目名	看護の探求		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
授業担当者	押領司民 小泉京子	実務経験と 関連資格	押領司(看護専任教員 看護師 看護学博士 病院勤務歴6年) 小泉(前副学院長 認定看護管理者 病院勤務23年)	
<到達目標> 1. 看護研究に関する基礎知識を学び、研究的視点を持つことができる。 2. 日常の看護実践を科学的、理論的に分析するための基礎的な手法を知る。 3. プレゼンテーションの方法を知り、3年次のケースレポートの発表に活かすことができる。 4. 文章読解力、論理的思考力、表現力を身につけ、自己の考えを適切に表現するための学習方法を学ぶ。				
<授業内容> 〔看護研究〕 30H 講師:押領司民 第1回・2回 看護研究の定義と目的 研究課題に関するブレインストーミング 研究計画書の書き方 4H 第3回・4回 ケーススタディの査読 自分の文章の査読 学会の質問内容の確認 4H 第5回～第8回 山梨民医連学術運動交流集会参加 8H 第9回～14回 卒業研究発表会 12H 第15回 プレゼンテーションについて 2H <授業評価> 〔文章表現〕 15H 講師:小泉京子 第16回 レポート作成のポイント 2H 第17回 思考の単位としての文 接続詞で思考の流れをつくる 2H 第18回 事実(観察)と推論 患者のありのままを記録する 2H 第19回 文章を批判的に読む 2H 第20回 問いを立てる 2H 第21回 レポート作成 序論・本論・結論 段落のつけ方 2H 第22回 レポートの推敲と自己点検評価 3H				
<授業方法> 看護研究 第1～4回、第15回は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて、講義形式とグループワークですすめる。 第5～8回の山梨看護学会は、山梨県看護協会主催の学会に参加をする。 第9～14回の卒業研究発表会は、3年生の卒業研究発表会に参加する。 文章表現 第16～21回は講師作成の資料をもとに講義形式と演習(個別及びグループ)を交えて行う。 第22回は自己で作成した文章を推敲し、自己評価した上で提出する。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・井下千以子;思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版, 慶應義塾大学出版会				
<履修上の注意点> 第9～14回の卒業研究発表会は、4日間に分けて開催される。入席時は他の課題の内容を聞き取る必要があるので、注意。				
<学生に向けてのメッセージ> 看護研究 一つの研究で明らかになることはわずかかもしれませんが、しかし、研究を積み重ねることによって、世界中の多くの患者さんの苦悩を軽減することができます。また、研究に関するライフテーマを持つことは、看護師としての人生をより有意義にするでしょう。 文章表現 看護学生には沢山のレポート課題が出されます。書くのが苦手という人も思考の流れや主張の明確化を意識することできっと文章に変化が現れるはずです。				



科目名	私たちの地域と生活		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	宮川江里	実務経験と 関連資格	看護専任教員 看護師 病院・訪問看護ステーション勤務8年	

<到達目標>

1. 地域看護とは何かを理解し、対象者は地域で生活する全ての人々であること、対象者の健康問題を科学的な視点で捉え、多様な健康要求を把握するための基礎的な看護について理解する。
2. ケアの対象である家族の特徴について理解する。

<授業内容>

第1回	地域・在宅看護論の概要	2H	
第2回	地域を知ろう	2H	
第3回・第4回	演習「地域リサーチ」 自分の地域を歩き、リサーチをする	4H	
第5回・第6回	「地域リサーチ」の発表	4H	
第7回	生活とは	2H	
第8回	地域で生活する人々の理解	2H	
第9回	家族とは	2H	
第10回・第11回	社会と家族の変化	4H	
第12回・第13回	家族看護 家族の理解と支援	4H	
第14回・第15回	暮らしを支える地域・在宅看護	4H	

<授業



<授業方法>

第1.2回は、国民衛生の動向を用いた講義とグループワークを行う。
第3.4回は、各自でフィールドワークを行う。個人でまとめて発表を行う。
演習以外は、は講義形式ですすめる。

<成績評価の基準>

授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。

<必携図書>

- ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤, 医学書院
- ・厚生 の指標増刊 国民衛生の動向, 一般財団法人厚生労働統計協会

<自己学習のポイント及び参考図書>

演習は、自分が住んでいる地域を実際に歩いて、その地域の特性を知る。
地域に住んでいる人と直接話をしたり、地域の特徴を写真に撮り、レポートにまとめて発表する。

<履修上の注意点>

教科書、国民衛生の動向、色鉛筆またはマーカーを持ってくる。

<学生に向けてのメッセージ>

地域看護は看護の原点です。その地域看護を学ぶ前に、まずは、しっかりと「地域」とは何か概念の理解が重要です。そのため、講義では地域とは何かを考え、次に、地域と生活、地域と看護へのつながり明確にしていきたいと思います。地域とは？と自らの言葉で語れることを目指します。これからさらに求められ、期待される地域看護を共に学びましょう。

科目名	地域の暮らしを支援する法と制度		授業形式	講義
履修年次	1年 後期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	鈴木美緒 鈴木勝利	実務経験と 関連資格	鈴木美緒(看護専任教員 保健師 病院勤務歴6年) 鈴木勝利(笛吹市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センターふえふき 相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士)	
<到達目標> 1.地域保健医療福祉活動について学び、そこでの看護師の役割を理解する 2.地域保健医療福祉活動の現状と課題について学ぶ 3.地域看護を支える制度や社会資源を説明することができる				
<授業内容> 第1回 地域看護の理念 地域看護を促す諸理念 地域保険医療福祉活動の理解 予防の概念 2H 第2回 自分が住んでいる地域の「広報」の整理から地域 保健医療福祉活動の特徴を抜き出す 2H 第3回 「広報」から地域で実際に行われている保健医療福祉活動の背景を個人で調べる 2H 第4～5回 「広報」から地域で実際に行われている保健医療福祉活動の背景をグループで調べる 4 第6回・第7回 地域の保健活動のグループワークの発表 4H 第8～9回 地域療養を支える制度 ①医療保険制度・介護保険②障がい者・難病に関する法制度 4H 第10回 地域の福祉活動 障害について 2H 講師:鈴木勝利 第11回・第12回 地域の福祉活動 社会福祉協議会の活動 4H 講師:鈴木勝利 第13回 ・第14回 地域の医療活動 地域で行われている実際の医療活動の内容を知る 4 第15回 地域保健医療福祉活動のまとめ 2H				
				<授業評価> 
<授業方法> 下記回以外は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。 第3～5回は個人演習とグループワークを行う。演習は自分の住んでいる地域の広報から保健活動について学びます。 第10.11.12回特別講義として、社会福祉協議会の方の講義を受ける。				
<成績評価の基準> 授業の出席および授業態度と提出物で合格・不合格を評価する。				
<必携図書> ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤, 医学書院 ・ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障2 公衆衛生, メディカ出版				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・自分の住んでいる地域のどんな保健・医療・福祉施設があるか広報などを見て調べてみましょう。 ・「厚生 の指標増刊 国民衛生の動向」一般財団法人厚生労働統計協会				
<履修上の注意点> ・自分の地域で実際に行われている保健医療福祉活動を知る。				
<学生に向けてのメッセージ> 地域の保健・医療・福祉活動について知り、地域で生活している療養者を支えている憲法や法律や制度を知りましょう。				

科目名	健康を害した人への看護Ⅱ		授業形式	講義
履修年次	2年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	新藤裕治 小泉京子 小島奈都美 大島智美 佐々木あゆみ	実務経験と関連資格	新藤(山梨県立大学看護学部実践基盤看護学領域准教授) 小泉(前副学院長 認定看護管理者 病院勤務23年) 大島(山梨大学医学部附属病院 造血細胞移植コーディネーター) 佐々木(看護師 病院勤務19年) 小島(看護師 病院勤務25年)	
<到達目標> 各疾患の病態生理, 症状, 経過, 検査, 治療法を理解し, それらに必要な看護について学ぶ。 ①内分泌疾患看護 ②脳神経疾患看護 ③血液疾患看護 ④腎・泌尿器疾患看護				
<授業内容> 内分泌看護 6H 講師:佐々木あゆみ 第1回 主な内分泌器官とその働き 内分泌疾患患者の看護(第6章) 第2.3回 脂質異常症・痛風 脂質異常症患者・痛風の治療と看護(第5・6章) 脳神経疾患看護 8H 講師:新藤裕治 第4回・第5回 脳神経疾患看護概論, 脳神経疾患理解に必要な身体・心理・社会的な特徴 第6回・第7回 主な脳神経疾患の概要(治療, 症状, 疾病管理について), 脳神経疾患患者への看護(急性期) 血液疾患看護 6H 講師:小泉京子、2H 講師:大島智恵 第8回・第9回 血液疾患の特徴 第10回・第11回 血液・造血器機能障害患者の看護 腎・泌尿器疾患看護 8H 講師:小島奈都美 第12回・第13回 医療の動向と看護 急性腎障害患者への看護(第1章)(第6章) 第14回・第15回 慢性腎臓病患者への看護、透析療法(第6章)				
				授業評価用QR 
<授業方法> 教科書及び授業で配布する資料を使い, パワーポイントに沿って講義する。				
<成績評価の基準> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> 黒江ゆり子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6, 内分泌・代謝, 医学書院 井出隆文他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7, 脳・神経, 医学書院 飯野京子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4, 血液・造血器, 医学書院 大東貴志他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学8, 腎・泌尿器, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> 田中越郎他「系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進2病態生理学」医学書院 脳神経疾患看護では, 復習に重点を置き, 講義において理解できなかった箇所をまとめることを勧める。 脳神経疾患看護の講義では, 「病気がみえる7脳・神経(メディックメディア)の図・表を使用していることが多いため, 復習時に参考図書として用いると効果的な復習が可能となる。				
<履修上の注意点> 医学映像セレクトの視聴 内分泌看護:「看護 生体のしくみ(第3版)vol.17 ホルモンのしくみ vol.18ホメオスタシスのしくみ」 脳神経看護:「看護 看護のための病態生理とアセスメント <知覚・運動>高次脳機能障害(vol.1.3)」 血液看護:「看護 生体のしくみ(第3版)vol.9 血液のしくみ」 腎看護:「看護 ME機器の知識と技術vol.7, 血液浄化装置」				
<学生に向けてのメッセージ> ・内分泌疾患と代謝疾患は慢性疾患の代表的なものであり長期の管理が必要です。 慢性疾患看護について学びを深めましょう(鈴木) ・解剖生理学Ⅰ(脳)、解剖生理学Ⅱ(血液)の学習を基盤としているため, 復習し臨むこと(新藤・小泉) ・高齢化に伴い、腎不全を発症する患者が増加しています。臨床でもよく見られる疾病であり、即実習にも役立つ内容です。 解剖生理学Ⅳ、疾病論Ⅳの学習をしっかり復習し、看護について一緒に学んでいきましょう(成島)				

科目名	ウィメンズヘルス		授業形式	講義
履修年次	2年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	松上まどか 円道 賀代子	実務経験と 関連資格	松上まどか (甲府共立病院 産婦人科医師) 円道 賀代子 (看護専任教員 助産師 病院勤務歴25年)	
<到達目標> 1.母性看護の基盤となる概念である、人間の性と生殖の持つ意味、メカニズムを科学的に理解し、“人権の尊重・自由と責任・男女の平等・連帯と責任のあり方”および母性の視点から「健康」について考える。 2.人間の成長発達過程と母性との関連を学び、母性看護の目的と看護の役割を考える。 3.母性を取り巻く社会環境の変化と母性看護の変遷を理解し、健全な性・生殖、母性の発達を保障するための母子保健活動について理解する。				
<授業内容> 第1回・第2回 母性とは(第1章)・母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状(第2章) 4H 講師:円道賀代子 第3回・第4回 セクシャリティ(第1章)・性感染症 4H 講師:松上まどか 第5回・第6回 母性看護の対象理解 (第3章) 4H 講師:円道 賀代子 第7回・第8回 女性のライフステージに各期における看護 (第5章) 4H 講師:円道賀代子 第9回・第10回 リプロダクティブヘルスケア (第6章) 4H 講師:円道賀代子 第11回・第12回 人工妊娠中絶と看護 性暴力をうけた女性に対する看護(第6章) 4H 講師:円道賀代子 第13回・第14回 不妊治療と看護 (各論 第2章) 4H 講師:円道 賀代子 第15回 周産期の対象理解 当事者授業 2H 講師:円道 賀代子				
授業評価用QR 				
<授業方法> 講師作成のパワーポイントと資料、教科書をもちいて講義形式ですすめる。 第15回は、当事者の母親に来校いただき周産期にある対象者の理解につなげる。				
<評価方法の詳細> 100点の筆記試験で評価する。				
<必携図書> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> 日常的に女性を取り巻く社会的変化や制度などに関心を持ち、新聞、ニュースなどから情報を得、自己の考えを加えて研鑽を積む。				
<履修上の注意点> 関係法規や母性保健は、国家試験に出題されるものも多く含まれるため、主体的に学習出来ると良い。 当事者授業に参加できなかった場合は、他の課題で内容を補う必要がある。				
<学生に向けてのメッセージ> 母性看護で一番重要なことは対象理解であると考えている。その材料になり、基盤となる知識の獲得を目指している。				

科目名	子どもの病気		授業形式	講義
履修年次	2年 前期		単位数(時間数)	1単位(30時間)
授業担当者	鶴田 真 鎌田 康弘 若松 宏実 大島 智恵 丸山陽子	実務経験と 関連資格	鶴田・鎌田・若松（甲府共立病院小児科医） 大島（山梨大学医学部附属病院 造血細胞移植コーディネーター） 丸山（看護専任教員 看護師 病院勤務歴13年）	
<到達目標> 1. 小児期に特徴的な疾患や障害について、その症状と発症および経過の特性、治療及び検査について理解する。				
<授業内容> 第1回・第2回 呼吸器疾患(第7章) 循環器疾患(第8章) 4H 講師:丸山陽子 第3回 神経疾患(第13章) 3H 講師:若松 宏実 第4回・第5回 アレルギー疾患・皮膚疾患・感染性疾患（第5・15・6章） 3H 講師:丸山陽子 第6回 代謝疾患(第3章) 2H 講師:丸山陽子 第7回 事故・外傷・誤飲/誤嚥・溺水・熱中症(第16章) 2H 講師:丸山陽子 第8回 新生児 低出生体重児(第2章)・染色体異常・先天異常(第1章) 2H 講師:鎌田康弘 第9回 内分泌疾患(第4章) 2H 講師:鶴田 真 第10回 腎・泌尿器疾患・生殖器疾患(第12章) 2H 鶴田 真 第11回 鼻咽頭疾患(第17章) 2H 講師:丸山陽子 第12回 消化器疾患(第9章) 2H 講師:鎌田康弘 第13回・第14回 血液造血疾患(第10章)・悪性新生物疾患(第11章) 4H 講師:大島智恵 第15回 精神疾患(第18章) 2H 講師:若松 宏実				
				授業評価用QR 
<授業方法> 全ての授業を講義形式で行います。				
<評価方法の詳細> 授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験を受ける資格が得られる。 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。				
<必携図書> 奈良間美穂他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論」医学書院				
<自己学習のポイント及び参考図書> ・坂井建雄他「系統看護学講座 専門分野 人体の構造と機能1 解剖生理学」医学書院 ・堺章「改訂 目で見えるからだのメカニズム」医学書院 ・北里大学病院看護部「NeW 臨床略語辞典」Gakken				
<履修上の注意点> ・多くの講師による講義となるため、資料整理を行い、学習に取り組んでください。				
<学生に向けてのメッセージ> 小児期特有の疾患も多くあります。子どもの病気の理解を深め、小児看護学実習Ⅱで活かしてほしいと思います。				